田面木小

自分の考えを進んで表現する子の育成

～根拠をもって説明する力を育てる授業づくり～

（３年計画の３年次）

校長　高山　一雄

１　研究主題について

本校では、教育目標の「よく聞き考える子」及び、努力目標の「よく聞き、しっかり考えて課題に取り組む」を受け、相手の考えを聞き、自分の考えを深めることのできる児童の育成を目指している。

１年次では課題に意欲的に取り組ませるための授業づくりや、自分の考えを積極的に表現しようとする気持ちを高めるための授業づくりを、全教科・領域で研究した。学習課題を設定する場面では、「しかけづくり」を取り入れ、児童に揺さぶりをかけたり葛藤させたりしながら、意欲的に課題に取り組むことができるように、自分の考えの根拠について、全ての児童が書いたり話したりできるような手立てについて工夫し、全ての児童が理由をつけて表現できることを目標にして取り組んできた。その結果、児童の発表意欲や課題解決への意欲を高めることができ、また、様々な場面で、多くの児童が理由をつけて表現することができるようになった。しかし、理由を書く力は向上したものの、話す力が弱いという課題が挙げられた。

２年次では、書く力だけではなく話す力も高めていくことを目標に、研究に取り組んだ。１年次同様、課題設定では学習の題材に「しかけ」をすることで、児童の課題解決への意欲を高め、さらに、課題設定の場面でも児童が理由を話せるような発問を、積極的に取り入れるようにした。課題解決場面では、考えさせるための材料となるものを児童に工夫して提示したり、少人数で話す場面を設定したりしたことで、話すことに抵抗感が少なくなった児童が増えたという成果を挙げることができた。しかし、発表することに重点を置いたことで、話すことがあまり得意ではない児童にとっては、考えの根拠が深めにくくなってしまうことや、個人差が大きくなってしまうという新たな課題が見つかった。

以上のような理由から、今年度は児童の課題解決への意欲を高め、全ての児童が自分の考えについて根拠をもって説明する力を育てる授業づくりを目指していくことにした。

２　研究のねらい

自分の考えについて根拠を明らかにしながら、進んで表現できる児童を育てるための指導のあり方を明らかにする。

３　研究仮説

思考の対立や葛藤、疑問をもたせるための課題設定や発問を工夫し、自分の考えの根拠について書いたり話したりするための支援や表現する場の設定を工夫することによって、児童が意欲的に課題解決に向かい、根拠をもって説明する力が高められると考える。

４　研究内容

(1)　児童に思考の対立や葛藤、疑問をもたせ、意欲的に解決しようとする学習課題を設定するための、学習材の「しかけ」や、発問の工夫はどうあればよいか、実践を通して明らかにする。

(2)　課題を解決するための話合いの場面や課題についてまとめる場面で、全ての児童が自分の考えの根拠をもって説明するための支援はどうあればよいか、実践を通して明らかにする。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	内　　容
５	２６	第１回授業研究　　第５学年　理科「植物が成長する条件」 授業者　　教諭　　鎌田　裕子
６	２４	第２回授業研究(要請訪問)　　第２学年　国語「たんぽぽのちえ」 授業者　　教諭　　野里　さや香 助言者　八戸市教育委員会教育指導課　　福田　秀貴　主任指導主事
９	２３	第３回授業研究（要請訪問）　第３学年　体育「逆上がり・多様な動きを作る運動」 授業者　　教諭　　三浦　紗耶香 助言者　八戸市教育委員会教育指導課　　竹井　亮　主任指導主事
１１	４	第４回授業研究　　あすなろ１組　自立活動「きもちをことばでつたえよう」　授業者　　教諭　　田村　久美子
９	１５	特別支援ブロック参観授業　　おおぞら学級　自立活動「宿題をやっていない時」　授業者　　教諭　　荒木　育子
１１	１１	低学年ブロック参観授業　　第１学年　算数科「くりさがりのあるひき算」 授業者　　教諭　　坂本　明希子
１１	１６	中学年ブロック参観授業　　第３学年　音楽「せんりつの流れと変化」 授業者　　教諭　　荒井　美佳
１１	１７	特別支援ブロック参観授業　あすなろ２組　自立活動「気持ちについて考えよう」　授業者　　講師　　湊　美穂
１２	３	高学年ブロック参観授業　　第６学年　理科「電気の有効利用」 授業者　　教諭　　磯谷　誠之
１２	１４	中学年ブロック参観授業　　第５学年　理科「もののあたたまり方」 授業者　　教諭　　山下　淳

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	２	特別な配慮を必要とする児童生徒への支援 講師　青森県総合学校教育センター　特別支援教育課　藤川　くみ　指導主事
７	７	いじめへの対応 講師　青森県総合学校教育センター　　教育相談課　平川　淳一朗　指導主事
８	２３	１人１台端末活用に関する研修 講師　八戸市総合教育センター　石井　一二三　主任指導主事

６　研究の成果

(1) 学習題材への「しかけ」は、この三年間で試行錯誤しながら様々な方法を実践できるようになった。研究授業などを通して、全ての教員が工夫して課題設定に取り組んだことにより、児童の意欲も全体的に高めることができた。

(2) 全員が考えを表現する取組では、「書くこと」と「話すこと」を組み合わせながら、どちらかの形で全員が考えをもつための手立てを工夫することにより、児童の表現する意欲や力を向上させることができた。また、話す場面では、少人数で話すことや、話すことが楽しいと感じられるような場面設定などを工夫することにより、自分の考えを伝えることに対する抵抗感を減らすことができた。

７　研究の課題

児童の学習意欲を高めるために、学習課題の設定場面では「しかけ」についてさらに研究を深めていくことが必要だと思われる。また、自分の考えを表現するだけではなく、相手の考えを聞きながら、解決に向けて伝え合う力を高めることについても、今後の課題として取り上げていきたい。

（記入者　　鎌田裕子）